

京都市環境審議会 第2回京の環境共生推進計画評価検討部会
議事摘録

日 時 平成22年11月2日（火） 午前10時～11時45分
場 所 職員会館かもがわ2階中会議室
出席者 小幡部会長、板倉委員、遠藤委員、中川委員、長谷川委員、松本委員
欠席者 大久保委員、奥原委員、徳地委員、深尾委員

内 容

1 開会

2 議題

（1）第1回京の環境共生推進計画評価検討部会の内容の整理について

- ・事務局から資料1について説明。

（意見なし）

（2）京の環境共生推進計画の中間点検について

- ・事務局から資料2について説明。

（松本委員）p2の表1.2は、二酸化炭素排出量の下に温室効果ガス排出量があり、この書き方だと二酸化炭素排出量とは別に温室効果ガス排出量があるような受け取り方をする人もいる。温室効果ガス排出量はトータルのものであることを明記したほうがよいのではないか。

p3のフロン回収量は、市町村レベルではこれで仕方がないのかなと思う。

フロン回収の対策がすべて「オゾン層保護対策の推進」の項目に入っている。フロンにはCFC、HFC、HCFCがあり、国際的にはCFCとHCFCはオゾン層保護対策、HFCのみが京都議定書の対象物質になっていることから、市でも同様の区分にしたほうがよい。

（小幡部会長）区分の仕方はオゾン層保護対策と京都議定書の対象物質でよいが、データとして把握できるかどうかの問題である。

（松本委員）何らかの説明が必要である。カーエアコンをターゲットにすると、オゾン破壊物質であるCFC12は今はほとんど使われていないことから、実態として回収されるのはHFCになる。しかし、温室効果ガスであるHFCはオゾン層を破壊しないので、それではオゾン層保護対策ではなくなる。

（小幡部会長）オゾン層を破壊するのはCFCか。

（松本委員）CFCとHCFCである。これらはモントリオール議定書の対象物質であり、国際法の中では重複を避けるため気候変動枠組条約ではHFCのみを扱っている。

（小幡部会長）区別は正確にする必要がある。フロン回収の対象はわかるが、その回収実態はわからない。フロン回収量はオゾン層保護対策の推進に入っているが、実態としてはほとんどなく、温室効果ガス排出量には代替フロンが含まれる。

（松本委員）CFC12は93・94年頃から生産していないはずである。

（小幡部会長）温室効果ガスとしてのフロンはあるのか。

(松本委員) HFC が今はメインのフロンである。

(小幡部会長) フロンを 2 つに分けて、オゾン層保護対策、地球温暖化対策のどちらに該当するか説明し、量がわかるかどうかを見極めていただく必要がある。

(臼居環境指導課長) HCFC などは府県レベルのデータもあるようだが、CFC は 94 年で生産全廃されており、減るのを確認するだけになる。指標としては提案通りとしたい。

環境省でフロン破壊量をデータとして出しており、京都市の実態に当てはまるかどうかは難しいところもあるが、日本全体の傾向はわかるので、国のデータを使って状況だけは確認していくということではいかがか。表現については事務局のほうで再度、詰めさせていただきたい。

(松本委員) フロンという言葉を使うとすべてが混乱する。CFC, HFC, HCFC を使い分けるのが一番明確で、誤解がない。カーエアコンの場合、実態としては HFC が対象となることから、HFC が対象であれば温暖化対策に入れ、オゾン層保護対策では項目として残し、注を付けてはいかがか。

(臼居課長) 表現も含め、誤解のないように整理させていただく。

(小幡部会長) 温室効果ガスのフロンは、何を対象にどのように推計しているのか。

(納谷地球温暖化対策室担当課長) 温室効果ガスでは代替フロンを把握している。

(小幡部会長) 両方に入れるなど、工夫していただきたい。

(松本環境企画部長) オゾン層のほうは市域のデータは取りにくい。

(小幡部会長) それはわかる。温室効果ガスに代替フロンが入っていることを注で入れていただきたい。

(的場環境総務課担当課長) 二酸化炭素排出量と温室効果ガス排出量が別物のような見せ方になっているので、温室効果ガスのほとんどを二酸化炭素排出量が占めていることがわかるように修正させていただく。

(小幡部会長) フロン回収量で、温室効果ガスとオゾン層の 2 つを入れることも考えられる。どう表現するか難しそうだが検討をお願いしたい。

(長谷川委員) p6 の市街化区域の緑被率は目標数値が 33%から 37%にアップしている。4%アップがどのくらい緑が増えたという実感になるのか、37%がどのくらい難しい数字なのかわからないがモデル都市ということもあって設定したのか、そのへんがわかれば楽しみにして待つことができるかと思う。

(小幡部会長) 平成 22 年 3 月に「緑の基本計画」が改定され、33%が 37%になった。1%上げるのに相当苦勞するはずだが、具体的にはどのように増えるのか。

(石原緑政課担当課長) 市街化区域を対象にしていたのを、改定した「緑の基本計画」で、市街地に変更した。市街化区域に囲まれた、吉田山や桂川など、島状あるいは線状に調整区域が存在するが、それらも市民に対する緑の寄与度は同じものであることから、それらも対象に含めた市街地ということにしている。

現在の市街地の緑被率は 35%で、年間 1 万本程度の高木を植栽していくと 37%に到達できるであろうという想定で、今回の目標を出している。

(長谷川委員) 広報掲示板のポスターは B3 程度の大きなサイズである。新しいポスターが配布されると、掲示期間内であっても新しいものにかえないといけないので、もう少しサイズを

- 小さくできないか。イベントの「エコ化」を考えるなら、掲示板に貼るポスターもサイズダウンし、催し期間中は貼ってくださいとしたほうが筋が通るのではないか。
- (小幡部会長) ポスターは大きくして目立たせたいという面もあるかと思う。省資源化・ごみの発生抑制ということで小さくすることも可能だが、実施要綱にはそこまでは入っていないのか。
- (松本部長) 実施要綱は、対象とするイベントは広げているが、イベント会場での、リユース容器の使用などの省資源であり、事前告知のポスターはこの要綱には入っていない。
- (小幡部会長) そのへんもまた検討していただきたい。
- (中川委員) ごみの減量がエコ意識の向上につながる。先日、私どもも、右京区で「ふれあいフェスティバル」を行ったが、食べ物の容器は全部使い捨てのものであった。行政からリユースできる容器もあるという PR がなされていなかったからである。
- (松本部長) 要綱を策定し、今、各自治会・団体にこういうイベントをお願いしますと呼びかけをしているところである。リユース容器は洗わないといけないので、通常の使い捨て容器よりコストがかかるので、行政としても呼びかけながら、それを埋める努力をしつつ、広めていきたいと思っている。
- (小幡部会長) 生き物調査についてはこれからデータが集まりそうということだが、p6 の長期的目標 3 の項目としてはまだ入らないということか。
- (的場課長) 今のところ、項目として入れる段階ではないと考えているが、引き続き調査を行い、いずれ指標として盛り込めるよう、熟度を高めていきたい。
- (遠藤委員) 生き物発見は、子どもと一緒に探したり、楽しそうだと思う。以前、家の植木に見たこともない大きなイモ虫がいて、駆除した後に、希少種だったらどうしようと心配をしたことがある。最近はガーデニングをやっている方も多いので、これがいたら気をつけてねとわかるようになっていっていると嬉しいと思う。
- (小幡部会長) 次回の部会で検討させていただく。
- (板倉委員) これだけの紙面にどれだけの生き物を載せるかということで喧々諤々と話をした。とりあえず、最初の第一歩はこれぐらいの種類になった。こうした資料ができれば、京都市民のレベルも上がってくると思うし、希少種を見つけて残していただくこともできるかと思っている。
- (小幡部会長) 生物多様性の関連で京都府も何か策定されるかと思うので、そういったところとも一緒に検討していただきたい。

(3) 京の環境共生推進計画の進ちょく状況について

- ・事務局から資料 3 について説明。

- (長谷川委員) p17、人口 1 人当たり公園等面積のグラフにある、赤い「年目標値」の線は、今まで見たことがなかった気がする。こういう線がこれまでもあったのか、平成 37 年度に向かって直線的に目標があるのかどうか。
- (小幡部会長) 「年目標値」はこれまでもあった。10 m²/人が最終年度の目標になっているが、どのように目標を達成されるのか、目標達成の見込みはあるのか。
- (石原課長) 10 m²/人は、都市公園法施行令に定められている全国の目標値である。平成 37 年

度まで具体的に公園化するところを積み上げて求めたものではない。

(長谷川委員) 4.56 ㎡から、だいたい 2 倍にしないといけない。今ある公園程度の面積のものを広げていくとすれば、今の倍の数を作らないといけない。それでは計算上、1 年に何個ずつ増やしていけばよいのか。

(石原課長) 公園には大きいものから小さいものまであり、年に何個というのは難しい。また、すべて買収でやるのではなく、借地公園といった手法、整備しやすい手法を色々と考えており、その中でできるだけ増やしていきたい。

(小幡部会長) 目標達成の極めて厳しいもの、あるいは国が決めているから市も決めたという目標もある。もう少し、目標達成の実現性というところを研究していただき、何とか可能性があるとか、あるいはどうしても無理ということであれば目標数値のほうを変えていただくとか、そういった検討をする必要がある。達成できない目標数値が書かれていると、計画そのもの、目標そのものが疑われることになる。p7 の二酸化窒素の京都市環境保全基準は達成の見込みはあるか。

(臼居課長) 年間の平均値は下がってきているが、正直厳しい。一般大気や水質の基準を京都市環境保全基準として定める限りは 100%にせざるを得なかった部分もある。

(小幡部会長) 目標値の決め方、達成するための方策について検討するため、コメントを入れる必要がある。

p2 の「進ちょく状況の概要」で、5 つの長期的目標についてどうだったかということが書かれているが、増減の事実だけでなく、原因分析などを少し加えて、これから我々が何をしていけばいいのか示す必要がある。

(的場課長) 市民にお示しする環境レポートでは、分析や、市民として何をやればどのような効果につながってくるのかなどをもう少し加えたい。経済が発展しつつ、かつ市民が取り組むことにより生活の質を保ったまま環境にやさしいような世界を目指していくといったこと、自分の取組が環境にどうつながるのかということがもう少しわかるような形でまとめていければと考えている。

(松本委員) 小幡部会長のご意見はその通りだと思う。それぞれの主体が次に何をすればいいのか、につながるようなものをお願いしたい。

p12・13、騒音の苦情件数は右肩上がりになっているが、これはなぜなのか。施策としてどれぐらい対応されているのか、自分達がやれることは何なのか、これから導入しなければならない施策はあるのか。騒音は身近なわりにはわからないので、ぜひ分析をお願いしたい。

(小幡部会長) 統計や表だけでなく、一人ひとりの思いや生活行為の関わりがあるので、その辺りの意見も出していきたい。

(4) 環境レポートに対する御意見について

・事務局から資料 4 について説明。

(小幡部会長) 意見は非常にたくさん出ており、意見としてはいい意見もある。

(長谷川委員) 環境レポートをもっと読んでみようということで、市から 50 部ほどいただいて、25 か 26 部ほど配布した。毎年、新しいものが出るたびに配布していこうと思っている。

区役所に配架しているとのことだが、学校の先生に読んでもらったかどうか。

(小幡部会長) 4,500部はすべて配布されたのか。

(的場課長) 昨年は 5,000 部作り、約 3,000 部を配布した。今年は 7,000 部作り、昨年度より配布対象を増やしている。環境保全イベント等での配布や、キャンパスプラザ京都など学生が集まる場所などでも配布している。

長谷川委員のご指摘については、各学校に配布という形ではないが、環境教育を担当する教員の研修の際に配布している。

配布対象を徐々に広げている状況で、環境レポート自体を、そのまま授業で使う訳ではないが、子どもたちに話をできる材料になるよう今後も工夫していきたい。

(中川委員) 環境レポートは充実したよい冊子だと思う。

私たちは環境家計簿を昨年からつけている。家計簿をつけると、去年より今年のほうが光熱費が少し安くなったなど、皆さんそういう思いを持っている。家計簿をつけることで、家計も助かるし、環境に対してもやさしいということになる。環境家計簿は 1 枚ものなので、このレポートの中に入れてはどうか。

(小幡部会長) 市では環境家計簿の事業もされており、子ども版環境家計簿もある。

(的場課長) 環境レポートに環境家計簿をはじめ他の施策まで掲載するとなると、膨大な量になる。今考えているのは、環境レポートで、環境家計簿、学校版環境家計簿などの施策や、定例的に行っているイベント、市民が年間通じて取り組んでいただけるようなページを作り、環境レポートを一種のメニュー集としての役割を果たせるものにしたいと考えている。

(小幡部会長) 環境家計簿、子どものエコライフチャレンジなどを、この環境レポートの話題の部分として、Do のところに入れていきたいということである。

(遠藤委員) 環境レポートを市民にわかりやすくという点で、行政からこれをやってくださいという形ではなく、市民の意見として私はこういうことをやっていますというような内容が書かれているとよいと思う。市民が具体的・積極的に意識して行動していることが見えてくると、読み物としても楽しみが出ると思う。

(小幡部会長) 環境レポートの最後に主な意見と市の事業にこうやって取り入れたということが書いてあるがなかなか見ないと思うので、中のほうに入れるということである。やっていないわけではないが、また工夫をお願いしたい。

(的場課長) 見える化という形で工夫したい。

(小幡部会長) 今年も環境レポートの最後のページのような形で、実行されたとか、市の施策に対応したとかの内容が入るとのことか。

(的場課長) ご意見をいただいているので、こういった形で紹介させていただくことを考えている。

3 閉会